

令和7年度 自己評価書・学校関係評価書

令和8年3月9日  
真庭市立天の川こども園  
園長 山本 久美子 印

1. 天の川こども園の教育保育目標

〈保育及び教育目標〉

様々な環境に進んでかかわり、いきいきと生活する子どもの育成

- 心も身体も元気な子ども
- 自ら考え行動する子ども
- みんなと仲良くする子ども

〈めざす天の川こども園像〉

- 園児が行きたいこども園
- 保育教諭が働きたいこども園
- 家庭・地域が通わせたいこども園

2. 本年度の重点目標（課題）

○今年度研究テーマ「 つながる保育～ヒト・モノ・ココロ～ 」

- ・園児一人一人の発達を理解した保育教諭との信頼関係をもとに、生活を一緒に繰り返し行い、心も体も健康な園児を育成する。
  - ・身近な環境に興味関心を持って粘り強く関わり、「やってみたい」という気持ちを持ち、じっくりと遊ぶ園児を育成する。
  - ・保育教諭が養護性をもって園児を支え、園児は自己の気持ちをコントロールし、自分も友達も大切に作る園児を育成する。
- 一人一人の心に寄り添った保育・教育の充実を図る。
- 天の川タイムを計画的にもち、異年齢児が交流する場をつくる。
- 小学校の児童と園児、職員交流の場を持ち、安心して就学できる関係をつくる。
- 地域の方と交流し、故郷の良さや人の温かさを感じられる郷育をする。
- 家庭との連携を密に個々の発達に応じた援助をし、相談しやすい雰囲気づくりに努め、保護者が子育ての喜びを実感できたり共通理解のもと共に成長できたりするように子育て支援をすすめる。
- 要支援・要保護家庭に対して関係機関と協力し、交換や見守りを続けながら、必要な支援や援助を行う。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	園児一人一人の発達を理解し、園の研究テーマである「つながる保育」を軸にもものと繋がる、人と繋がる環境構成の再構築に努めた。	3	3
行事	行事の実施回数も概ね適切で、行事を通してお子さんの成長を感じている保護者も9割いてくださった。	3	4
組織・運営	協働性を高めるために、明確な目標を立て、自分の役割を自覚し、話しやすい関係性づくりに努めた。大勢の職員の相互理解の難しさもあった。	2	3
学級経営	園の教育保育目標を概ね理解して、園児の主体性を育む保育に努めた。保育教諭の思いが強くなってしまいう学級運営にならないよう、チームで見守る体制も整えていった。	2	3
特別支援教育	多様な保護者ニーズに対応するために関係機関との連携をもち、特別支援の観点から求められる対応について研修などにも積極的に参加できたが、保護者対応の難しさを感じた。	2	3
安全管理・保健指導	誰でも保護者に紛れて入れてしまう通用門の危険性について、今後不審者訓練などを通して関係機関と連携をとっていく。	2	2
研修（資質向上）	全員が1回は園外研修に参加できるように配慮した。時代と共に変化する保育について共通理解ができるよう園内研修も回数を増やすなどした。新採用研修は園全体の研修として行った。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	コドモンによるタイムリーな情報提供に努めた。後援会役員を含む保護者、地域の方とも良好な関係性を保て、様々な園運営を助けていただいている。	3	4
小学校との接続・連携	天津川東両小学校との合同研修の中で、初めて保育に参加していただき、カリキュラムだけではない連携で共に学ぶことができる一歩を踏み出すことができた。継続していく。	3	3
子育て支援	園児だけにとどまらず、園開放、園見学に来園された親子との会話も大切に、しっかりと話を聴くことに努めた。	3	3
食育の推進（給食）	「和食の日」には園児も出汁を味わい、保護者へ出汁をとることの効果や大切さを栄養士が伝えた。参観日での給食参観後にはレシピの要望があった。	4	4
食事の提供（調理）	アレルギー児への除去食や離乳食提供など多岐にわたるが、安心安全でおいしい給食が提供できた。	4	4
保育教諭としての自覚と職員間の連携	若手保育教諭の育成も含め、リーダー保育教諭を中心に連携がスムーズにいくような話し合いを重ねてきた。保育教諭として「丁寧な保育」「丁寧な対応」について、柔軟な対応が求められる。	3	3

#### 4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

今年度「つながる保育～ヒト・モノ・ココロ～」を研究テーマに掲げて、次のような取り組みを行った。安心感が心の安定に「つながる」ように、園児一人一人の背景に配慮し、思いを受け入れ、寄り添うことに留意した。また、自ら選んで遊ぶコーナー作りでは、人や物との「つながり」がしっかりともてるように、環境を園児と一緒に作り、保育教諭自身もその場でゆったりと関わりながら、必要に応じた援助や環境の再構築をするように努めた。園児の思いを受容し寄り添うことを積み重ねていくことで、園児は受け入れてもらえる安心を感じ、自分で考えて決め、行動する力の育ちへと繋がり、園児の表情が生き活きてきた。また、学年やクラスを超えて、保育教諭間で園児のことを共通理解して関わることで、担任以外の保育教諭にも安心して頼れる関係性を築くことができた。

園児一人一人に寄り添いながら、ゆっくり成長を見守る保育を積み重ね、保護者対応、関係機関との連携や小学校への接続なども、丁寧に対応することを心がけてきた。今年度は初めて、小学校の先生方に夏休みの期間を利用して、実際に保育に参加していただくことを試みることができ、今までとは違った接続への第一歩になることを評価委員の方からも期待していただいた。また、特別支援教育に関する対応については、特別という捉えではなく、一人一人への細やかな対応が支援教育にも繋がるのでは、と助言をいただき、園内でも共有することができた。

課題になっている安全管理については、担当課へ相談をしながら、園では避難訓練などできることを重ねていくことの必要性を評価委員の方から助言いただいた。

今年度も様々な研修を園全体で受けることができた。また、日々の保育を振り返る中で、連携がスムーズにいくような話し合いを重ねてきた。保育教諭として「丁寧な保育」「丁寧な対応」についても自らを振り返り、いつでも柔軟に行動できるような自覚と職員間の連携を大切に、保育をすすめていきたい。

#### 5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

保護者から求められる「丁寧な保育」「丁寧な対応」、そして、研究がすすみ今の時代の「一人一人を大切にする保育」というところの本質を理解して、柔軟性のある対応に、職員全員で取り組みたい。そのためには、園内外の研修に積極的に参加したり、保育を語る場の設定をして園児理解に努めたり、職員間の連携をとり、職員全員で天の川こども園の園児の育ちに必要な「保育」を楽しむチームづくりを整えていきたい。

安全管理については、通用門の開閉、地震の時の子どもたちの反応について評価委員の方から、園でできる日々の訓練に取り組み、関係機関との連携を整えていくことをあらためてご指導いただいた。今後も、想像力を駆使して園で取り組んでいく。

小学校との連携については、今年度に引き続き、小学校の先生方に実際保育を経験していただく中で、子どもたちの興味、子どもたちの育ちを共有する接続、10の姿を利用したわかりやすい連携に努め、さらに共通理解ができるような場になるようにしていきたい。

若手からベテランまで大勢の職員がいる園で、協働性を高めるために、目標を明確に共有できる方法を取り、笑顔で挨拶をすること、しっかりと対話をする、わかりやすく説明すること、相手の立場にたってみること、など基本に返って、保育教諭として自覚をもち、子どもたち、保護者の方にとって安心できる環境を整えたい。